

# 3 Tri GRAPH

2016.06.01 (wed)

07.10 (sun)

Closed on Monday  
13:00-19:30

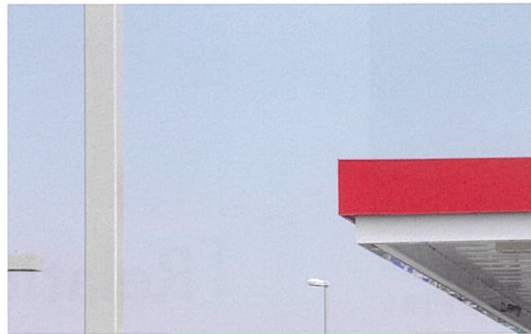
#1:私性 06.01(wed)-12(sun)

キリコ ヨシダミナコ



#2:原理性 06.15(wed)-26(sun)

林 佑紀 中澤 有基



#3:時間と浸食 06.29(wed)-07.10(sun)

カワトウ 片岡 俊



本展は、独自の方法で作品制作を行う6名の写真家が、ギャラリー空間を2名ごとに分割共有し、ダブル個展という形で発表を試みる連続企画展です。

「私性」「原理性」「時間と侵食」という3つのテーマを手掛かりにして作品を交差させあい、共通項の差異を浮き彫りにすることで、鑑賞者により豊かな作品受容を促すことが本展の意図です。

またテーマ毎に、現在旺盛に活動されている若手キュレーターを交えたトークショーを行います。

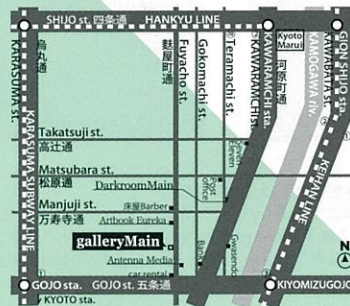
鑑賞者と作家の間にこれら第三者の視点を差し挟み、「三角関係」を織り成すことで、作品受容における理解の間口を押し広げ、作品に「触れる・読む」ことを改めて再考する契機にしたいと考えます。

本展が、「写真」の創作可能性を考える一つのきっかけとして、様々な示唆を受け取れる場になることを願っております。

galleryMain

gm

WaPoC  
WHAT A POWER OF CASE



【企画・主催】 galleryMain  
 【共催・デザイン】 WaPoC (www.wapoc.net)  
 【お問い合わせ】 galleryMain  
 www.gallerymain.com  
 info@gallerymain.com  
 〒600-8059  
 京都市下京区麩屋町通五条上る下鱈形町543-2F  
 075-344-1893 / 080-1428-3672

#1:私性

2016.06.01(wed)-12(sun)

Closed on Monday 13:00-19:30

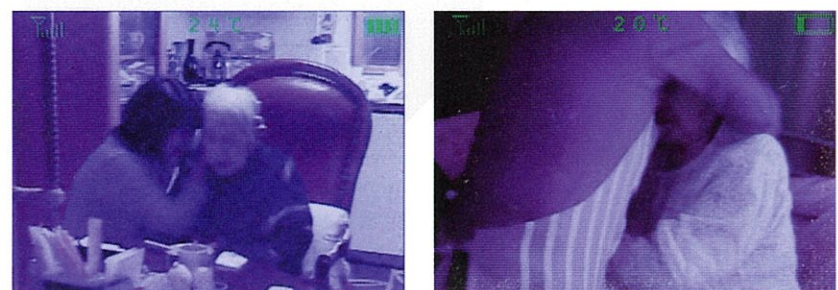
<トークイベント> 6/4(土) 19:00- キリコ × ヨシダミナコ × 玉置 慎輔 (WaPoC)

入場無料



人生や生き方に興味があり、どの様に生きれば幸せなのかを写真を撮ることで模索し続けている。

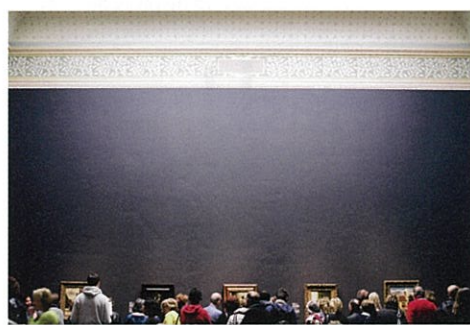
祖母を撮り出して既に6年以上が経つ。88歳になった祖母は依存しないと生きられない存在となり、娘である私の母を「おかあさん」と呼ぶようになった。今回、祖母と母の間に私自身を全く介入させない方法で彼女たちの日常を観察し、そこから見える事柄について改めて考えてみた。



キリコ Kirico

1978年 京都府生まれ 神戸市在住  
 2009年より写真・映像などを使った作品制作・発表を続けている。  
 第32回キヤノン写真新世紀 佳作(荒木経惟 選)、ミオ写真奨励賞2010 入選、  
 London International Creative Competition 佳作(2015年)。  
 近年の個展に、2013年「re collection」Port Gallery T/大阪、  
 2015年「re collection」CROSSROAD GALLERY / 東京などがある。  
 moritasuzu.wix.com/kirico

「2回目の愛」



「普通の日々」

絵描きの夫と一緒に九九年。  
 わたしは自身の制作の手を止めていた。  
 彼の絵描きとしての真摯でひたむきな姿勢に、初めはそれを見ているだけでどこか満たされていた部分もあったのかもしれない。けれど、気がつくと出口を見つけれない焦燥感のようなものが常につきまとって、長い間、わたしは真っ暗なトンネルの中にいた。

ヨシダミナコ Yoshida Minako

1981年 兵庫県神戸市生まれ 奈良市在住  
 日本写真映像専門学校卒業  
 2002年 キヤノン写真新世紀 優秀賞(マルク・リブー選)、  
 2005年 富士フォトサロン新人賞 奨励賞。  
 初個展2002年「向かうところ」The Third Gallery Aya / 大阪  
 以降、2007年までコンスタントに作品を発表。  
 2016年 約9年振りに写真の活動を再開。  
 www.yoshidaminako.jimdo.com



## 「縁へ」

それ自体に意味のある景色や、心的な印象に直接結びつく対象には関心がなく、日頃どこにでも見られる、意味を成さない事物の切片に、現実とは異なる位相を見出したい。  
『青空がいきなりひろがり、その光を受けて、道の真中で一頭の牝牛が輝いた。これだけで何事かにならなくては物語ではない。』(ローベルト・ムージル)  
言葉がほじめてしまう、そんな認識を喚起する場所へ。写真を介して切り取り、紡ぐ。



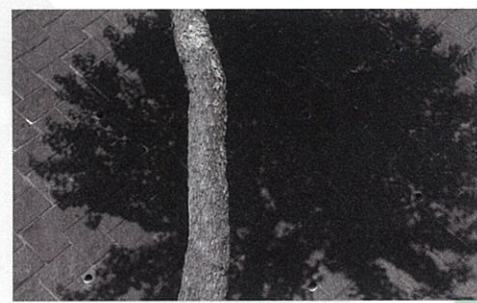
林 佑紀  
Hayashi Yuki

1984年 大阪府生まれ 大阪府在住  
2009年～2015年までgallery10:06(自主運営ギャラリー 大阪)に在籍。  
主な個展に、2013年「carve gravity」gallery RAVEN/東京、gallery10:06/大阪、gallery CLASS 奈良、2011年「nation of city slave」gallery10:06/大阪、2010年「suburb」 gallery10:06/大阪などがある。



## 「Relation, appropriate distance」

角度や距離によってモノの見え方は変わり、関係も距離によって変容する。関係とは、AとBで初めて成立し、距離もまた、AとBがあって成立する。無関係な"何か"と"何か"が、写真の中で関係を結び、それ自らが新しく世界を始める。そこには"視覚"と"認識"に対する問いかけがある。



中澤有基  
Nakazawa Yuki

1980年 三重県生まれ 京都市在住  
2004年ビジュアルアーツ大阪卒業  
galleryMainを主宰するなどギャラリストとして活動しながら写真作品を発表。  
主な展示に、2013年「震える森、焦点の距離」gallery 9 kyoto/京都、  
2013年「SAKURA010」galleryMain/京都、2014年「FOTOFEVER ARTFAIR PARIS 2014」  
Carousel du Louvre/パリなどがある。



## 「Scat of Muhammad」



気付いた時にはもう遅かった。一瞬にして迫ってきた停車中のエステイマのリアガラス。木端微塵に砕け散るソレと愛車のCL400。顔面から一瞬にして吹き出す大量の真っ赤な血と、とてつもなく美しい秋空。鼻も口も私の顔面から旅立つことなく、味気ないこの脳ミソも破裂することなく、辛うじて一命は取り留めた。

カワトウ Kawatou

1983年 宮崎県生まれ 大阪市在住  
この度、プロフリーターからプロ営業マンへ転身  
全くの無名、これといった受賞歴は無し。  
強いて言うなら保育園のマラソン大会での3位獲得、それくらい。  
2010年 大阪産業大学大学院卒業  
2012年 写真表現大学本科修了  
フリーのフォトプロイド誌「Noiz」の発行や、インディーズ写真集レーベル「CITYRAT press」の立ち上げなど、大阪を拠点に活動。



## 「吸水」

昼夜問わずに写真を撮った。日が暮れるとともに覆い被さるように広がる深い闇は、ただの暗さではなく、少し道を逸れると背筋が寒くなるような、黒々とした闇だった。近隣の川を氾濫させるほどの水量を記録した雨は、道を濡らし、川の姿を変え、川岸に様々な物を運ぶ雨となった。闇と水分。そのどちらかが場所に浸透していた。

片岡 俊 Kataoka Shun

1984年 京都府生まれ 京都府在住  
受賞歴「KAWABA NEW-NATURE PHOTO AWARD 2014 グランプリ」  
近年の個展に、2010年「TouchJid Gallery / 京都」などがある。